

和田家：板倉と稲架小屋

白川郷最大の合掌造り家屋である和田家の周辺には、地域の慣習や事情を反映したいくつかの関連建造物が建っている。そのうちの二つ、「板倉」と「稲架小屋」は、いずれも母屋から少し離れた北側に位置している。これは、白川郷の茅葺き木造家屋にとって最大の脅威であった火災の際に、一方の建物から他方の建物に火が移るのを防ぐためである。

穀物倉庫である板倉は、合掌造りのような急勾配の茅葺き屋根を持つ。しかしこれは実用的な理由ではなく、純粋に様式的な理由で選ばれた屋根構造である。この建物は、現在も穀物などの食料品を貯蔵するために使われている。周りを囲む木製の横木も屋根で覆われているが、これは刈り取った稲を乾燥させるためのものだ。

もっとシンプルな稲架小屋（乾燥小屋）は、高い屋根の下に同じ横木が並んでいるが、元々の茅葺き屋根は現代の金属製の屋根に変わっている。倉と小屋で乾燥させた稲は、その場で脱穀され、藁の一部は合掌造りの家の屋根を固定するための縄に使われるという。この縄は、通常 20～30 年に一度の葺き替えのたびに交換する必要がある。